

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																						
新東京歯科技工士学校		昭和56年3月30日	福原 達郎		〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211																						
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																						
学校法人 東京滋慶学園		昭和61年2月1日	中村 道雄		〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211																						
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																					
医療	歯科技工士 専門課程	歯科技工士科 I 部			平成22年文部科学省告示 第五十三号																						
学科の目的	知識・技術・社会人基礎力を兼ね備え、歯科医療チームの一員としてグローバルな視点を持てる歯科技工士となる。																										
認定年月日	平成26年 3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	2070時間	660時間	120時間	1290時間	0時間	0時間																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
180人		155人	15人	6人	38人	44人																					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 筆記試験、口頭試験、実技試験、論文あるいはレポートで行う。																						
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月の3週間 ■冬季:12月下旬～翌年1月の2週間 ■学年末:3月の3週間			卒業・進級条件	■1つの学期ごとに全科目A～D評価を得た者。 ■卒業時まで全科目を履修し、学年ごとに必修単位数を取得し、学校長が適当と認められた者。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話連絡の他に、必要に応じて、個人面談、三者面談を実施する。			課外活動	■課外活動の種類 ・歯科技工士会と連携した研修会の開催 ・各種講習会、デモンショ、学会の参加 ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 歯科技工所、歯科診療所、歯科機材メーカー ■就職指導内容 学内合同就職説明会や人事採用ご担当者を招き、情報提供に努めている。 ■卒業生数 67 人 ■就職希望者数 56 人 ■就職者数 56 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 83.6 % ■その他 ・進学者数: 6人 (平成 30 年度卒業生に関する平成31年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>歯科技工士免許</td> <td>②</td> <td>67人</td> <td>65人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 第19回歯型彫刻コンテスト『ほるほる』 最優秀賞: 蔭 中華 優秀賞: 加藤 麻衣 奨励賞: 猪俣 淳史			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	歯科技工士免許	②	67人	65人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
歯科技工士免許	②	67人	65人																								
中途退学の現状	■中途退学者 6 名 ■中退率 3.9 % 平成30年4月1日時点において、在学者199名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者190名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 病気、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 電話連絡・個人面談・三者面談実施及びSSC(学校カウンセラー)との連携強化																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度(入学前の成績優秀者への学費減免)・スカラシップ制度(在校生向け学校独自指標優秀者への学費減免) ・被災罹災者学費減免 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	URL:http://www.dt.ntdent.ac.jp																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界が求める人材要件(知識・技術・人間性等)を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員規程 第7条に基づき、

委員長は、学校が編成した教育課程案を委員会に付議し、委員会による改善意見を学校長に報告しなければならない。また、学校長は、前項の報告を活かした教育課程を決定し、委員会に告知するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
西澤 隆廣	公益社団法人日本歯科技工士会	平成30年4月1日～令和2年3月31日	①②
菅沼 佳一郎	株式会社 三和デンタル (大田区)	平成30年4月1日～令和2年3月31日	③
森野 隆	公益社団法人日本歯科技工士会	平成30年4月1日～令和2年3月31日	①②
星野 世一	株式会社 ワールドラボ	平成30年4月1日～令和2年3月31日	③
福原 達郎	新東京歯科技工士学校 学校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
三觜 雅子	新東京歯科衛生士学校 副学校長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
高平 敦	新東京歯科技工士学校 事務局長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
今井 リカ	新東京歯科技工士学校 教務部長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
小島 三知長	新東京歯科技工士学校 学部長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	
富野 浩子	新東京歯科技工士学校 学科長	平成30年4月1日～令和2年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 5月 11月

(開催日時)

第1回 令和元年5月28日 17:00～18:30

第2回 令和元年11月26日予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

①『情報技術基礎』1年生 正しい情報収集と発信の仕方など、情報リテラシーを学ぶ内容を追加した。

②早期離職を防止するために、卒後2ヶ月後(6月中旬)に、同窓会に協力を得て同期会を実施。今抱えている問題について個別にアドバイスし、明日からの仕事に活かせる技術セミナーを開催。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

インターンシップⅠ、Ⅱでは、企業見学および就業体験を実施する。就業体験では一人企業に赴き、一日の仕事の流れを体験しながら社会人としてのマナーや作業効率を学ぶ。また、臨床的実習模型等を用いた実習を現場の担当者のもと実施。各項目について評価表を提出して頂き、最終評価は本校教員が行う。

コース別実習Ⅱ、Ⅲ、Ⅳは選択必修の科目(総合コース、デジタル技エコース、スポーツ技エコース)で、学内または学外(企業先)にて特別実習を実施している。

総合コースはポーセレン実習、デジタルコースはCAD設計実習、スポーツコースはスポーツマウスガード実習を、それぞれの専門企業に委託している。実習評価については、各企業の指導のもと本校教員が行う。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
インターンシップⅠ	歯科技工士が働く現場(歯科技工所や歯科診療所)の見学や体験を通して、臨床現場の仕事の流れを理解し、卒業後の進路決定の参考に。また、訪問先で接する人々に対するマナーを知ることを通して社会性を身につける。	(株)ワールドラボ、(株)オーリアラ、YAMAKIN(株)、DSデンタルスタジオ(株)、(株)メディナ、ケン・デンタリック(株)、和田精密歯研(株)、(株)ジーシー等
インターンシップⅡ		
コース別実習Ⅱ	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	(株)デンタルデジタルオペレーション、デンツプライシロナ(株)、リンカイ(株)、みはる矯正歯科医院
コース別実習Ⅲ	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	デンツプライシロナ(株)、リンカイ(株)、みはる矯正歯科医院、Y's Dental Techno.Mouthguard Factory
コース別実習Ⅳ	総合コース、デジタルコース、スポーツコースに分かれ、それぞれの現場を見学、体験しながら、必要とされる知識を学ぶ。	(株)オーリアラ、(株)ZOO LABO、日本ピストンリング(株)、リンカイ(株)、(株)スマートプラクティスジャパン、みはる矯正歯科医院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

業界と連携し、学会発表のための共同研究や企業主催の研修に積極的に参加する。
学部長、学科長中心に年間の研修を企画し、上記の研究成果や研修で得られた知識を学内で共有する。

※教員研修規程からの抜粋

第2条 研修は、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。

第4条 法人本部並びに学校は、教員の研修計画を策定、実施し、教員に研修を受ける機会を与えなければならない。

2 法人本部または学校が必要と認めるとき、他の機関と共同または委託し、研修を行うことができる。

第6条 教員は、日常の勤務を通し必要な研修を受けるものとする。

2 日常勤務を通した研修は、教員の監督者がその計画を策定、実施する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

【第8回 日本国際歯科大会 2018】

対象 専任教員

主催: クインテッセンス出版株式会社

併催: 第8回 ワールドデンタルショー2018

内容: 4年に一度開催される、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士による国際シンポジウムと国内最大級のデンタルショー

期間: 10月5日～6日

最新の歯科事情や国内外の歯科症例。また最新の歯科機器・材料を知り、教育に活かす。

【歯科技工士実習施設指導者等養成講習会 応用コース】

対象: 専任教員

主催: 全国歯科技工士教育協議会

内容: CAD/CAMシステムの学校授業での活用法

期間: 12月1日、2日

基本的なCAD操作手順を習得、口腔内スキャナー・3Dプリンターについて学ぶ。

【スキャナー説明会】

対象: 専任教員

主催: デンタルネットコミュニティ

内容: CAD/CAM、スキャナーとCAM機、エクゾCAD

期間: 1月30日

デジタルコースを担当する教員の技術向上を目指し教育に活かす。

【スポーツ歯科医学会】

対象: 専任教員(スポーツ担当教員2名)

主催: 一般社団法人日本スポーツ歯科医学会

内容: スポーツ歯科の事例発表、研究発表など

期間: 6月23日、24日

スポーツ歯学について業界の動向や最新の研究事例を習得し、コース別実習授業の教育に活かす。

また、スポーツ技工コース授業での取り組みを事例発表している。発表内容については、学会員である歯科医師を顧問として招聘し、指導をして頂いている。

②指導力の修得・向上のための研修等

【特別講義：歯科技工士教育に必要とされるコミュニケーション力 ～もっと顔で話そう・声で話そう～】

対象：教務部長、学科長

主催：全国歯科技工士教育協議会（演者 有限会社コーディアル 代表取締役 坪井 まり子先生）

内容：オリジナルレジュメに添って教員自身が記入を行うことで結論を導き出す。

期間：5月17日

学生との良好なコミュニケーションを日々の授業の中でとり、将来に不安を持つ学生たちの気持ちを下支えるために活用する。

【国家試験対策研修会】

主催：滋慶学園グループ 国家試験対策センター

内容：医療・福祉系国家試験の問題傾向と合格対策について、報告と事例発表など

期間：7月13日

国家試験の最新の結果と問題傾向を検証結果を情報収集し、国家試験全員合格に向けての対策を検討する際の参考にする。

【進路アドバイザー研修】

対象：専任教員

主催：滋慶教育科学研究所

内容：学校生活不全を訴える学生に対して進路変更を検討・推進する担当者を養成する。

期間：7月10日

進路変更のコンサルティングスキルを学び、資格取得し活用していく。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

【歯科医師と歯科技工士の交流会】

対象：専任教員

主催：（一社）日本臨床歯科CAD/CAM学会 関東甲信越部

内容：CAD/CAMをキーワードに歯科医療に関わる人と歯科界の今後を考える。

期間：10月27日

得た情報や意見取り入れ、教育に取り入れる。

【専任教員講習会Ⅱ】

対象：専任教員

主催：全国歯科技工士教育協議会

内容：

期間：8月19日～8月20日

学生指導、コーチング、研究技法の基礎、医療倫理など学び教育に活かしていく。

②指導力の修得・向上のための研修等

【専任教員講習会Ⅰ】

対象：専任教員

主催：全国歯科技工士教育協議会

内容：教育者としての資質向上を図るための基本的な知識・技術・態度を修得する。

期間：8月22日～8月23日

カリキュラムプランニングや評価法を学び教育に活かしていく。

【専任教員講習会Ⅱ】

対象：専任教員

主催：全国歯科技工士教育協議会

内容：

期間：8月19日～8月20日

学生指導、コーチング、研究技法の基礎、医療倫理など学び教育に活かしていく。

【ルーブリック評価法研修】※学内研修

対象：専任教員

講師：授業改革担当教員

内容：ルーブリック評価法を活用した授業評価の事例発表と作成

期間：必要に応じて不定期に実施予定

明確な評価を明示するため、すべての科目でルーブリック評価表を作成し活用法を学び実践につなげる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置く。評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

高等学校の関係者より学校の重点的な取組であるアクティブラーニングについて高い評価を頂いた。その評価を基に効果が見込まれる科目に展開できるよう段階的に取組むことになった。卒業生代表より卒業生を対象にした生涯学習の充実について意見を頂いた。その意見を基に同窓会と連携をして、若手の歯科技工士を対象にした実技セミナーを開催した。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
五十嵐 智	コレクトデザイン	平成30年4月1日～令和2年3月31日	卒業生
根目沢 順子	保護者	平成30年4月1日～令和2年3月31日	保護者
阿部 隆一	元法政大学中学・高等学校 講師	平成30年4月1日～令和2年3月31日	高等学校
塩津 二郎	大田区蒲田歯科医師会	平成30年4月1日～令和2年3月31日	地域等委
今井 久二	和田精密歯株式会社	平成30年4月1日～令和2年3月31日	企業等委

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

令和元年7月末日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

歯科業界の動向や最新の技術について情報提供していただき、カリキュラムの見直しを図る。また、学生の進路決定や将来の目標設定させる際の参考とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	国際連携の状況
(11) その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: <http://www.dt.ntdent.ac.jp>

授業科目等の概要

(歯科技工士専門課程歯科技工士学科 I 部) 2019年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報技術基礎 Fundamentals of Information Technology	情報リテラシーを理解し、インターネットやSNSで得た情報を授業に活用することができる。	1年次 前期	15	1	○			○		○	○	
○			歯科英語 English for Dental Technology	あいさつや、web検索方法、海外の展示会などで用いる主な表現を学び、英語で基本的な情報交換ができることを目標とする。	1年次 後期	15	1	○			○			○	
○			造形美術概論 Compendium of Art of Dental Technology	形態の見方や表現方法の基礎を学ぶ。演習を通じて歯科技工に必要な立体的形態の表現技術を養うことを目標とする。	1年次 前期	15	1		○		○			○	
○			キャリアデザイン I Career Design I	自己理解および他者理解を講義と実践を通じて学。特に異文化とコミュニケーションの学びから自己信頼の構築を目指す。	1年次 前期	15	1	○			○			○	
○			キャリアデザイン II Career Design II	キャリアデザイン I での学びをキャリア形成に活用する。業界動向の諸事例を元に、将来像を明確にすることを目標とする。	2年次 前期	15	1	○			○			○	○
○			歯科技工学概論 Compendium of Dental Technology Science	歯科医療に関する基礎知識、歯科技工の重要性及び歯科技工物についての概要理解を目標とする。	1年次 前期	15	1	○			○			○	
○			歯科技工士関係法規 Dental Technologist Applicable Laws and Regulations	「歯科技工士」として業務を行うために必要な「歯科技工士法」を中心に、歯科医療に関する法律への理解と遵守を目標とする。	2年次 前期	15	1	○			○			○	
○			歯科臨床基礎 Fundamentals of Clinical Dentistry	歯科保存治療に不可欠な、仮歯の製作工程、ブリッジ製作の流れと要点を製作を通じて理解することを目標とする。	1年次 後期	15	1		○		○			○	
○			歯の解剖学基礎 I Dental Anatomy-Basis I	歯や口腔の概説、特に永久歯の形態的特長を学び、実習授業にその知識を活用できることを目標とする。	1年次 前期	30	2	○			○			○	○
○			歯の解剖学基礎 II Dental Anatomy-Basis II	口腔機能、特に頭蓋骨の構造や咀嚼機能に関する基本的な知識を理解することを目標とする。	1年次 後期	15	1	○			○			○	○
○			歯の解剖学応用 I Dental Anatomy-Advanced I	筋の働きをちゅうしんとした口腔機能や歯の発生機構、硬組織及び歯周組織について、構造と経年変化を理解することを目標とする。	2年次 前期	30	2	○			○			○	○
○			歯の解剖学応用 II Dental Anatomy-Advanced II	歯の解剖学で修得した知識について、国家試験過去問題を用いて知識の構造化を行い、理解を深めることを目標とする。	2年次 後期	30	2	○			○			○	

○			歯型彫刻基本 Dental Carving	歯型彫刻に必要な器具の使い方を学び、繰り返し実践することで課題を制限時間内に完成できることを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○			○	○		
○			顎口腔機能学基礎 Stomatognathic Function Science-Basic	下顎運動の概要を学び、歯科技工物の製作に必要な咬合に関する基礎知識の理解を目標とする。	1年次後期	15	1	○				○			○			
○			顎口腔機能学応用 Stomatognathic Function Science-Advanced	様々な咬合位を理解し実習授業にその知識を活用できる。指定された咬合位について再現できることを目標とする。	2年次前期	15	1	○				○			○			
○			顎口腔機能学実践 Training of Stomatognathic Function Science	顎口腔機能に関する基礎知識を、咬合器装着と補綴物の製作の実践を通じて確認できることを目標とする。	1年次後期	15	1	○				○			○			
○			歯科理工学基礎Ⅰ Dental Materials Science-Basic I	石膏、床用レジン、歯科用金属について種類と性質を理解し、理論に基づいた取り扱いができることを目標とする。	1年次前期	30	2	○				○						○
○			歯科理工学基礎Ⅱ Dental Materials Science-Basic II	ワックスや埋没材について種類と性質を様々な視点から理解し、理論に基づいた取り扱いができることを目標とする。	1年次後期	30	2	○				○						○
○			歯科理工学応用Ⅰ Dental Materials Science-Advanced I	セラミックや複合材料について、種類と性質を理解し、理論に基づいた取り扱いができることを目標とする。	1年次前期	30	2	○				○			○			○
○			歯科理工学応用Ⅱ Dental Materials Science-Advanced II	高分子、セラミックス及び複合材料の種類と性質を理解し理論の実践ができる。また、国家試験過去問題を活用し、既習事項の理解を目標とする。	1年次後期	30	2	○				○			○			○
○			有床義歯技工学基礎Ⅰ Denture Techniques -Basic I	ヒトの生体に関する基礎知識及び、部分床義肢の構成要素、技工操作の手順を学び、説明できることを目標とする。	1年次前期	30	2	○				○			○			○
○			有床義歯技工学基礎Ⅱ Denture Techniques -Basic II	金属床義肢及び全部床義肢の特性を学び、印象方法、模型製作から完成までの手順を学び、説明できることを目標とする。	1年次後期	30	2	○				○			○			○
○			有床義歯技工学応用Ⅰ Denture Techniques -Advanced I	基礎Ⅰ及びⅡの既習事項である全部床義歯及び部分床義歯について、知識を構造化し、説明できることを目標とする。	2年次前期	30	2	○				○			○			○
○			有床義歯技工学応用Ⅱ Denture Techniques -Advanced II	有床義歯技工学で習得した知識について、国家試験過去問題を用いて知識の構造化を行い、理解を深めることを目標とする。	2年次後期	30	2	○				○			○			○
○			部分床義歯基礎実習Ⅰ Basic Training of Partial Denture Techniques I	義歯に関する基本的事項について、学生自らが装着できる「口蓋板」の製作を通して確認できることを目標とする。	1年次前期	30	1					○	○		○	○		
○			部分床義歯基礎実習Ⅱ Basic Training of Partial Denture Techniques II	部分床義歯製作について、構成要素の一つである支台装置の製作を通して、義歯の基本設計を習得することを目標とする。	1年次前期	30	1					○	○		○	○		
○			部分床義歯基礎実習Ⅲ Basic Training of Partial Denture Techniques III	部分床義歯製作について義歯完成までの手順と理論及び基礎技術について、製作を通して確認できることを目標とする。	1年次前期	30	1					○	○		○	○		

○		有床義歯基礎実習 Denture Techniques	課題製作を通じて部分床義歯製作の各工程を確認し、2年進級に必要な基礎力を習得することを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○			○	○
○		全部床義歯基礎実習 I Basic Training of Complete Denture Techniques I	義歯製作に必要な個人トレー、作業模型製作、咬合器装着に関する知識について、製作を通じて確認できることを目標とする。	2年次前期	30	1				○	○			○	○
○		全部床義歯基礎実習 II Basic Training of Complete Denture Techniques II	人工歯排列、歯肉形成、口蓋部の隆起といった義歯製作に必要な知識を、製作を通じて確認できることを目標とする。	2年次前期	30	1				○	○			○	○
○		全部床義歯基礎実習 III Basic Training of Complete Denture Techniques III	蠟義歯の埋没、重合、咬合調整、研磨から完成までの義歯製作に必要な知識を、製作を通じて確認できることを目標とする。	2年次前期	30	1				○	○			○	○
○		有床義歯総合実習 I Basic Training of Denture Techniques I	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験の課題を180分で制作できる技術の習得を目標とする。	2年次後期	30	1				○	○			○	○
○		有床義歯総合実習 II Basic Training of Denture Techniques II	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験の課題を150分で制作できる技術の習得及び、ワイヤー屈曲を規定時間内に製作できることを目標とする。	2年次後期	30	1				○	○			○	○
○		有床義歯総合実習 III Basic Training of Denture Techniques III	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験及国家試験に合格できる技術力を課題練習を通じて習得することを目標とする。	2年次後期	30	1				○	○			○	○
○		歯冠修復技工学基礎 I Restorative Dentistry-Basic I	歯科保存治療に用いるインレーや全部金属冠等の穂鉄物について要件や製作順序の理解を目標とする。	1年次前期	30	2	○				○			○	○
○		歯冠修復技工学基礎 II Restorative Dentistry-Basic II	歯科保存治療に用いるブリッジや前装冠等の穂鉄物及び、支台築造について要件や製作順序の理解を目標とする。	1年次後期	30	2	○				○			○	○
○		歯冠修復技工学応用 I Restorative Dentistry-Advanced I	製作難易度の高い各種穂鉄物について、その要件や製作順序の理解を目標とする。	2年次前期	30	2	○				○			○	○
○		歯冠修復技工学応用 II Restorative Dentistry-Advanced II	歯冠修復技工学全般について、構造化した知識を国家試験過去問題の演習を通じて確認し、基本的知識を再構成できることを目標とする。	2年次後期	30	2	○				○			○	○
○		歯冠修復基礎実習 I Basic Training of Restorative Dentistry I	歯の形態と噛む機能の回復を考慮した蠟形採得の製作を目指し、完成できることを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○			○	○
○		歯冠修復基礎実習 II Basic Training of Restorative Dentistry II	模型の正しい取り扱い方法を理解し、インレーについて模型製作から完成できることを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○			○	○
○		歯冠修復基礎実習 III Basic Training of Restorative Dentistry III	模型の正しい取り扱い方法を理解し、咬合器に模型を正しく装着することができる。全部鑄造冠の模型製作から完成できることを目標とする。	1年次前期	30	1				○	○			○	○
○		歯冠修復基礎実習 IV Basic Training of Restorative Dentistry IV	製作方法の流れと製作時間を考慮し、全部鑄造冠について模型から完成まで製作できることを目標とする。	1年次後期	30	1				○	○			○	○

○			歯型彫刻応用 I Advanced Training of Dental Carving I	デッサンと歯型彫刻の技術向上を目指す。歯の形態的特徴を見本を用いて規定時間内に表現できることを目標とする。	2年次 後期	30	1				○	○			○	○		
○			歯型彫刻応用 II Advanced Training of Dental Carving II	デッサンと歯型彫刻の技術向上を目指す。歯の形態的特徴を見本を用いずに規定時間内に表現できることを目標とする。	2年次 後期	30	1				○	○			○	○		
○			歯科技工実習総合 I Training of Dental Technology I	チーム歯科医療の一員としての役割を、歯科衛生士科や歯科技工士科2年生との実習を通じて確認できることを目標とする。	1年次 前期	30	0				○	○			○	○		
○			歯科技工実習総合 II Training of Dental Technology II	習得した知識や技能の確認を行う。課題製作を通じて学生自らも今後の課題を設定し、技術向上に活かせることを目標とする。	1年次 後期	30	1				○	○			○	○		
○			歯科技工実習総合 III Training of Dental Technology III	課題製作や合同実習を通じて、習得した知識や技能の確認を行う。今後の課題を設定し、技術向上に活用することを目標とする。	2年次 前期	30	1				○	○			○	○		
○			歯科技工実習総合 IV Training of Dental Technology IV	国家試験形式の実習を通じて、基礎技術の向上を目指す。規定時間内に国家試験に合格できる作品の製作を目標とする。	2年次 後期	30	1				○	○			○	○		
○			スポーツ歯学入門 Introduction to Sports Dentistry	スポーツ歯学及びスポーツマウスガードの役割を学ぶ。演習を通じて基本的なマウスガードを作成できることを目標とする。	1年次 前期	15	1				○	○			○	○	○	○
○			デジタル歯科技工入門 Introduction to Digital Dental Technology	PCの基本操作を学び、歯科専用ソフトウェアを用いて「盛る」「削る」操作ができることを目標とする。	1年次 前期	15	1				○	○			○	○		
○			コース別実習 I (総合・デジタル・スポーツ) An Optional Programs I	基礎的な模型を用いた実習を通じて、各コースに関する基本的な知識を理解することを目標とする。	1年次 後期	30	1				○	○			○	○	○	○
○			コース別実習 II (総合・デジタル・スポーツ) An Optional Programs II	見学実習も含めた実習を通じて、臨床現場で必要とされる基礎的な知識の習得を目的とする。	1年次 後期	30	1				○	○	○	○	○	○	○	○
○			コース別実習 III (総合・デジタル・スポーツ) An Optional Programs III	作品及びレポートの完成を通じて、基礎的な知識の習得と今後の課題設定ができることを目標とする。	1年次 後期	30	1				○	○	○	○	○	○	○	○
○			コース別実習 IV (総合・デジタル・スポーツ) An Optional Programs IV	実習 III までの知識と課題を確認し、基本的知識を応用した作品を完成することができる。	2年次 前期	60	2				○	○	○	○	○	○	○	○
○			課題研究実習 I Research and Professional Practice I	習得した知識・技術を検証、今後の課題設定ができる。課題解決できる作品を決め、製作手順を決定し、製作を開始することを目標とする。	2年次 前期	30	1				○	○			○	○		
○			課題研究実習 II Research and Professional Practice II	得意分野における成長に必要な課題を自ら設定し、それに基づいた作品を決定できる。計画通りに製作を進めることを目標とする。	2年次 前期	30	1				○	○			○	○		
○			課題研究実習 III Research and Professional Practice III	作品の完成を通じて専門性を磨き、レポートを用いて課題設定に対する検証を行うことができることを目標とする。	2年次 後期	30	1				○	○			○	○		

○		インターンシップ I Internship I	代表的な歯科技工就業施設の見学を通して、歯科医療専門職として社会で働くために必要な課題を設定し、実践することができる。	1年次 前期	15	1		○				○	○		○
○		インターンシップ II Internship II	歯科技工業務の見学及び就業体験を通じて、業界で活躍するための課題を設定し、進路決定の準備を具体的に進めることができる。	2年次 前期	30	2		○				○		○	○
○		総合歯科技工学 Dental Technology - Comprehensive I	国家試験学説科目に関する知識について、知識の定着と技工業務に必要な知識確認を目標とする。	2年次 後期	15	1	○				○		○		
○		総合歯科技工実習 Training of Dental Technology - Comprehensive	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験や国家試験に必要な技術を反復練習を通じて向上させることを目標とする。	2年次 前期	30	1					○	○		○	
○		国際性講座 International Courses	海外の歯科事情や訪問国における歯科業界の動向について、現地での研修を通して理解する。	1年次 後期	30	1					○	○		○	
合計				44科目	2070時間(95単位)										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学年ごとに必須単位数を修得し進級する。 全科目履修で卒業となる。		1学年の学期区分	前期・後期
		1学期の授業期間	21週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。